

ごあいさつ



理事長

藤嶋 伸一郎

平素は、私ども豊田信用金庫に対し格別のご愛顧を賜りまして、誠に有難く厚くお礼申し上げます。ここに当金庫の2023年度の事業内容をお伝える「TOYOSHIN REPORT 2024 豊田信用金庫の現況」を作成しましたので、ご報告させていただきます。

さて、2023年度の経済動向を概観いたしますと、ロシア・ウクライナ戦争の長期化や欧州経済の低迷等に加え、金融引き締め下での大幅な円安進行など、複数の外部要因により経営環境に大きな影響を受けました。また、コロナ禍からの脱却は景気回復の原動力となりましたが、想定外の物価上昇が個人消費停滞を引き起こしました。一方、インバウンド需要の回復やコスト増の価格転嫁が進んだことは、デフレ脱却のための基盤を整える一因となりました。2024年2月の日経平均株価の最高値更新、同年3月のマイナス金利政策の解除等、市場環境も大きく変化しております。今後も、物価、賃金、市場金利等の経済指標を注視しながら日々変化する収益環境に適切に対処してまいります。

こうした経営環境の中、当金庫は地域の皆様にご満足いただける金融商品、サービスの提供に努めてまいりました。

新規商品につきましては、2023年7月より、保険商品ラインナップ拡充のため住友生命「たのしみグローバルⅢ(定率増加プラン)」を新規採用いたしました。また、新NISA制度の開始に伴い2024年2月より、新たに投資信託17商品の取扱いを開始いたしました。

新規業務につきましては、2023年9月より、アプリを利用し個人間で低廉、簡便な送金サービスを提供する「こたら送金」の取扱いを開始いたしました。2024年2月からは、インターネットを利用した投資信託の売買注文や各種照会が可能となる「とよしん投信インターネットサービス」を導入しております。さらに、「とよしんアプリ」の機能強化を図り、税金等の口座振替申込機能の対象となる自治体やサービス等を順次拡充するなどお客様の利便性向上に努めております。

業績面を見ますと、預金につきましては期末残高で1兆

8,280億円(前期比685億円3.8%増)となり、貸出金につきましては同じく9,235億円(前期比218億円2.4%増)となりました。これに伴い、預貸率は期末残高において50.52%と前期比0.72ポイントの低下となりました。

収益面では、引き続き物価高、資源高等により影響を受けた事業者の皆様への継続支援ならびに住宅ローン等の供給に努めた結果、貸出金利息収入が前期比2億円増加いたしました。また、預け金での運用強化に努めたことにより預け金利息収入が前期比3億円増加したほか、投資信託の基準価格上昇や新NISA制度の開始を背景として預かり資産販売が堅調であったことから役務取引等収益が2億円増加いたしました。

費用面では、預金支払利息が前期比1億円増加しました。また、ゼロゼロ融資の利子補給及び返済据置期間の終了や物価高騰に起因する事業者のお客様の経営状況悪化に伴い個別貸倒引当金繰入額が6億円増加しましたが、一般貸倒引当金繰入額は5億円減少しました。

以上から経常利益は37億円(前期比5億円17.2%増)となりました。また、当期純利益は27億円(前期比3億円14.0%増)となりました。

今期は2024年度を初年度とする中期経営計画「Challenge for TX(とよしんトランスフォーメーション)2024」に取組み、ビジョンとする「これからもずっととよしん」のもと、お客様に選ばれる金庫、職員が働きたいと思う金庫、地域とともにあり続ける金庫を目指してまいります。特に重点取組項目として、(1)「金融仲介機能とお客様本位の業務運営の推進による積極的なお取引先様支援」、(2)「自ら学び考え行動する人材育成と全職員が活躍する組織づくり」、(3)「リスク管理態勢の高度化」を進め、各種経営課題や計数目標に挑戦し、地域金融機関としての強固な経営基盤を確立してまいります。

引き続きなお一層のご支援ご鞭撻を賜りたく、謹んでお願い申し上げます。

2024年7月